

# 商工会議所 L O B O ( 早期景気観測 )

- - 平成 1 9 年 7 月 調査結果 - -

( 平成 1 9 年 8 月 1 日 )

調査期間：平成 1 9 年 7 月 1 9 日 ~ 2 5 日

調査対象：全国の 4 0 7 商工会議所が 2 5 7 8 業種組合などにヒアリング  
( 内訳 ) 建設業 3 7 8 製造業 6 1 7 卸売業 2 3 5  
小売業 7 3 5 サービス業 6 1 3

調査項目：今月の売上・採算・業況などについての状況 ( D I 値を集計 )  
及び、業界として当面する問題など

## D I 値について

D I 値は、売上・採算・業況などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

D I = ( 増加・好転などの回答割合 ) - ( 減少・悪化などの回答割合 )  
業況・採算 : ( 好転 ) - ( 悪化 )      売上 : ( 増加 ) - ( 減少 )

日本商工会議所

本件担当：産業政策部 TEL: 0 3 - 3 2 8 3 - 7 8 3 6  
E-Mail: sangyo@jcci.or.jp

なお、本調査結果は日商ホームページ( <http://www.jcci.or.jp> )でもご覧になれます。

**全指標が2カ月連続で悪化、業況D Iは2年弱ぶりにマイナス30台へ**

7月の景況をみると、全産業合計の業況D I（前年同月比ベース、以下同じ）は、前月水準（29.5）よりマイナス幅が3.3ポイント拡大して32.8となり、2カ月連続でマイナス幅が拡大した。マイナス30台は22カ月ぶり。

産業別の業況D Iは、建設でマイナス幅が縮小したものの、他の4業種で拡大した。

景気に関する声、当面する問題としては、受注確保、売上増加、先行き期待という声が寄せられている一方、売上減少、業況低迷、仕入コストの上昇による採算悪化、天災や天候不順による影響などを訴える声も聞かれる。

【建設業】からは、「受注の減少により従業員の過剰感がある」（一般工事）、「公共事業がほとんどなく、業況は依然として低迷している。この状況がいつまで続くのか検討もつかない」（一般工事）、「公共工事の減少により資金繰りに苦慮している」（土木工事）との声が寄せられている。

【製造業】からは、「原油や原材料価格の上昇が懸念材料である」（金属加工機械製造）、「仕入コストが増加し、採算が合わない」（畳製造）、「資金繰りが悪化している。染料、薬品、石油などの価格の高騰に翻弄されている」（織物）と、仕入コストの上昇を訴える声が寄せられている。

【卸売業】からは、「受注が減少しており、先行きに不安を感じる」（建築材料卸売）、「荷動きが停滞している」（鉱物金属材料卸売）、「業績が伸びない」（食料・飲料卸売）、「魚価が輸入品を中心に高騰している。また、取扱量が減少している」（農畜産水産物卸売）との声が寄せられている。

【小売業】からは、「夏物衣料品、エアコン、冷蔵庫の動きが悪い」（その他の小売）、「消費者の購買意欲は依然として低い。消費者の呼び戻しに苦慮している」（商店街）、「来店客数の減少が続いている」（商店街）、「夏物商戦で苦戦している」（百貨店）との声が寄せられている。

【サービス業】からは、「売上は若干増加傾向にあるものの、鮮魚や青果を中心に仕入単価が上昇しているため、採算の回復には至っていない」（食堂・レストラン）、「景気回復感はない。売上が減少し、業況は非常に厳しい」（その他の一般飲食店）との声も寄せられている。

売上面では、全産業合計の売上D Iは、マイナス幅が6.8ポイント拡大して28.2となり、2カ月連続で拡大した。産業別にみると、D I値のマイナス幅は建設で縮小したものの、他の4業種で拡大した。

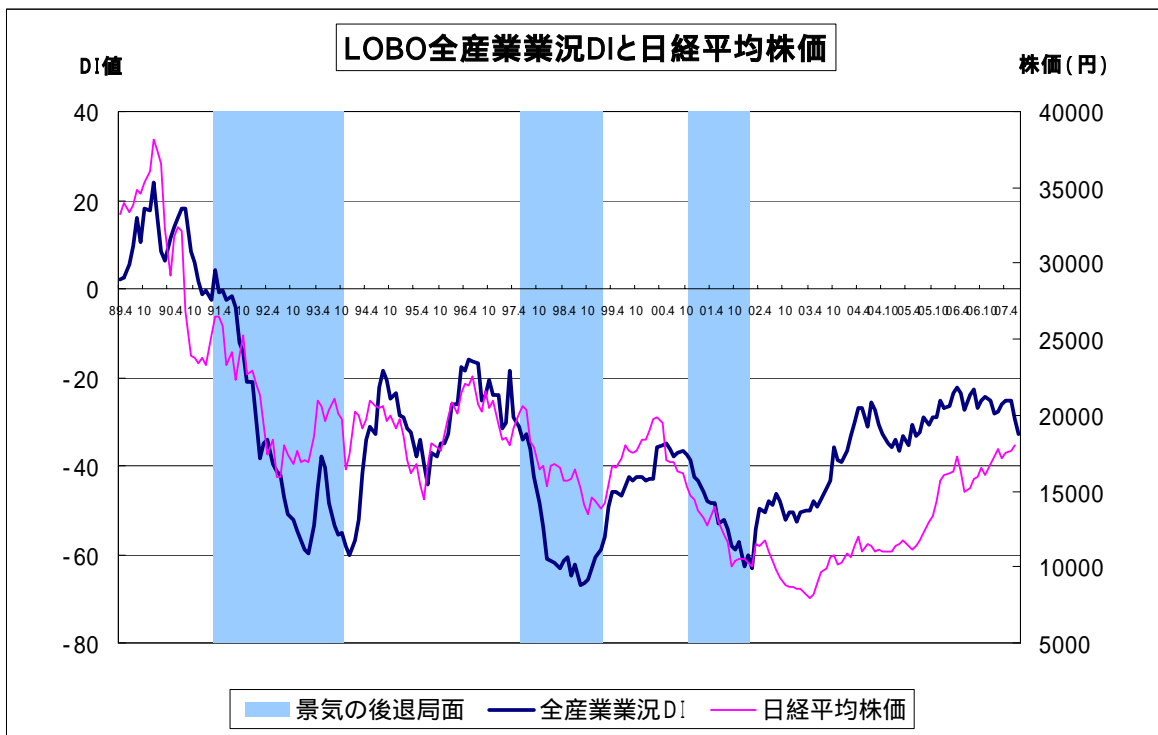
採算面では、全産業合計の採算D Iは、マイナス幅が5.7ポイント拡大して33.2となり、2カ月連続で拡大した。産業別にみると、D I値のマイナス幅はすべての業種で拡大した。

資金繰り面では、全産業合計の資金繰りD Iは、悪化超感が2.0ポイント強まって21.8となり、2カ月連続で強まった。産業別にみると、D I値の悪化超感はずべての業種で強まった。

仕入単価面では、全産業合計の仕入単価D Iは、上昇超感が2.3ポイント強まって32.4となり、5カ月連続で強まった。産業別にみると、D I値の上昇超感はずべての業種で強まった。

従業員面では、全産業合計の従業員D Iは、過剰超感が2.1ポイント強まって2.3となり、3カ月連続で強まった。産業別にみると、D I値は建設で過剰超感が弱まったものの、小売、サービスで不足超感が弱まり、製造で過剰超感に転じ、卸売で過剰超感が強まった。

向こう3カ月(8月~10月)の先行き見通しについては、全産業合計の業況D I(今月比ベース)が24.0と、昨年同時期の先行き見通し(21.3)に比べて悪化している。



【業況についての判断】

7月の景況をみると、全産業合計の業況DI（前年同月比ベース、以下同じ）は、前月水準（29.5）よりマイナス幅が3.3ポイント拡大して32.8となり、2カ月連続でマイナス幅が拡大した。マイナス30台は22カ月ぶり。

産業別にみると、建設でマイナス幅が縮小したものの、他の4業種で拡大した。

向こう3カ月（8月～10月）の先行き見通しについては、全産業合計の業況DI（今月比ベース）が24.0と、昨年同時期の先行き見通し（21.3）に比べて悪化している。

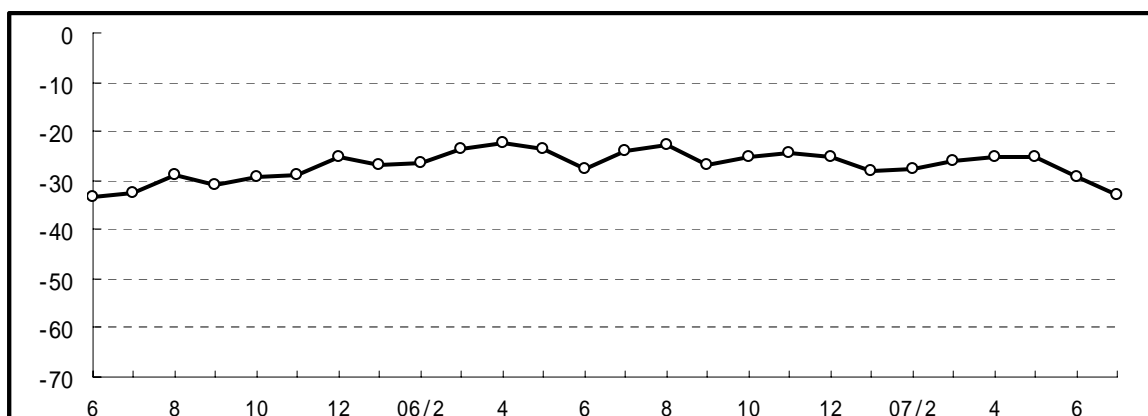
産業別に昨年同時期の先行き見通しと比較した場合、サービスでマイナス幅が縮小しているものの、他の4業種で拡大している。

業況DI（前年同月比）の推移

|      | 19年<br>2月 | 3月   | 4月   | 5月   | 6月   | 7月   | 先行き見通し<br>8～10月 |
|------|-----------|------|------|------|------|------|-----------------|
| 全産業  | 27.8      | 26.0 | 25.3 | 25.1 | 29.5 | 32.8 | 24.0<br>( 21.3) |
| 建設   | 41.5      | 42.8 | 36.8 | 40.9 | 46.0 | 43.5 | 41.3<br>( 34.3) |
| 製造   | 14.3      | 14.5 | 20.6 | 21.3 | 23.4 | 26.3 | 20.7<br>( 14.1) |
| 卸売   | 35.8      | 37.7 | 38.2 | 27.8 | 39.4 | 42.6 | 26.7<br>( 26.3) |
| 小売   | 30.0      | 25.4 | 19.8 | 22.3 | 26.5 | 31.4 | 18.8<br>( 16.9) |
| サービス | 27.2      | 23.7 | 23.9 | 20.9 | 24.5 | 30.8 | 21.4<br>( 23.7) |

「先行き見通し」は当月に比した向こう3カ月の先行き見通しDI  
( )内は昨年7月の先行き見通しDI <以下同じ>

《業況DI（全産業・前年同月比）の推移》



【売上（受注・出荷）の状況についての判断】

売上面では、全産業合計の売上D Iは、マイナス幅が6.8ポイント拡大して28.2となり、2カ月連続で拡大した。産業別にみると、D I値のマイナス幅は建設で縮小したものの、他の4業種で拡大した。

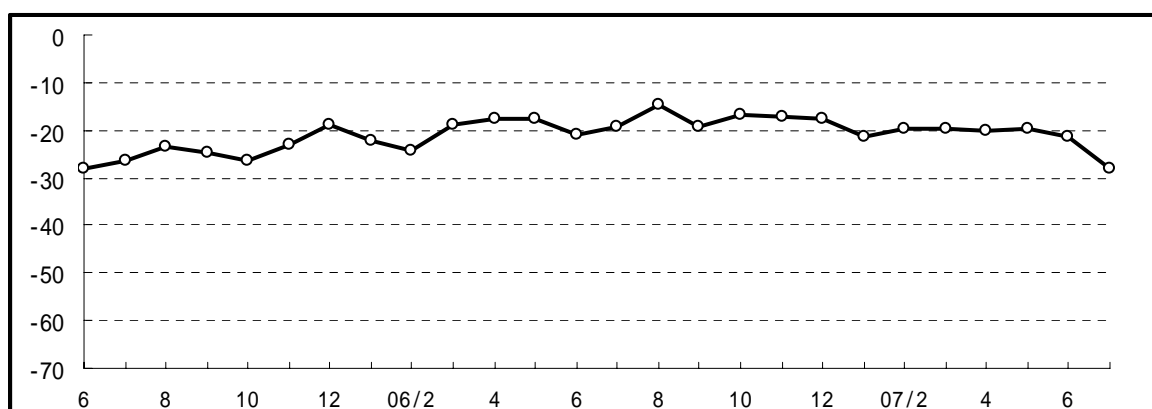
向こう3カ月(8月～10月)の先行き見通しについては、全産業合計の売上D I(今月比ベース)が18.0と、昨年同時期の先行き見通し(14.8)に比べて悪化している。

産業別に昨年同時期の先行き見通しと比較した場合、卸売、サービスでマイナス幅が縮小しているものの、他の3業種で拡大している。

売上（受注・出荷）D I（前年同月比）の推移

|      | 19年<br>2月 | 3月   | 4月   | 5月   | 6月   | 7月   | 先行き見通し<br>8～10月 |
|------|-----------|------|------|------|------|------|-----------------|
| 全産業  | 19.7      | 19.5 | 20.3 | 19.9 | 21.4 | 28.2 | 18.0<br>(14.8)  |
| 建設   | 30.0      | 35.8 | 34.8 | 37.8 | 37.9 | 34.3 | 34.9<br>(25.9)  |
| 製造   | 0.5       | 6.5  | 9.3  | 9.1  | 10.7 | 20.1 | 16.2<br>(6.0)   |
| 卸売   | 33.3      | 34.4 | 36.3 | 22.8 | 30.6 | 35.2 | 17.3<br>(21.8)  |
| 小売   | 26.0      | 19.7 | 18.5 | 20.0 | 19.7 | 31.2 | 15.8<br>(13.7)  |
| サービス | 20.0      | 16.8 | 18.1 | 18.4 | 20.3 | 26.5 | 12.1<br>(15.2)  |

《売上（受注・出荷）D I（全産業・前年同月比）の推移》



【採算の状況についての判断】

採算面では、全産業合計の採算D Iは、マイナス幅が5.7ポイント拡大して33.2となり、2カ月連続で拡大した。産業別にみると、D I値のマイナス幅はすべての業種で拡大した。

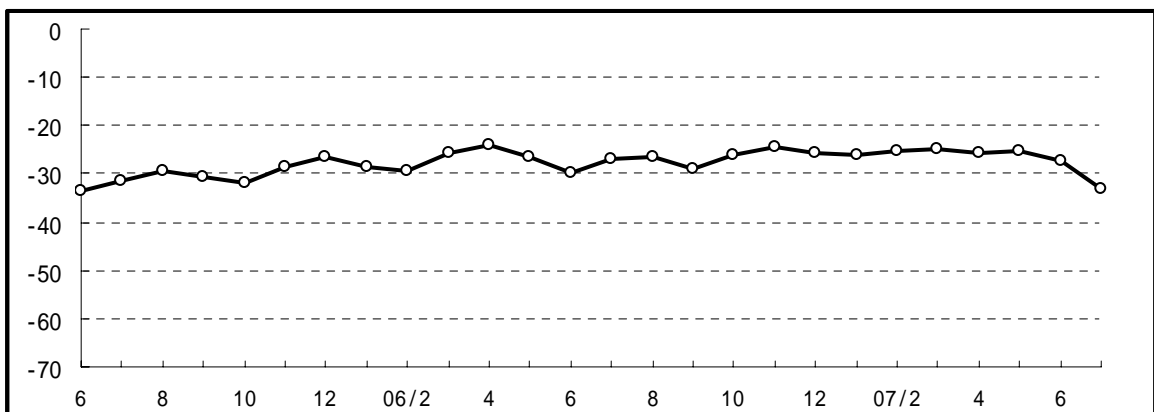
向こう3カ月(8月～10月)の先行き見通しについては、全産業合計の採算D I(今月比ベース)が25.7と、昨年同時期の先行き見通し(21.6)に比べて悪化している。

産業別に昨年同時期の先行き見通しと比較した場合、卸売、サービスでマイナス幅が縮小しているものの、他の3業種で拡大している。

採算D I (前年同月比) の推移

|      | 19年<br>2月 | 3月   | 4月   | 5月   | 6月   | 7月   | 先行き見通し<br>8～10月 |
|------|-----------|------|------|------|------|------|-----------------|
| 全産業  | 25.4      | 24.7 | 25.6 | 25.2 | 27.5 | 33.2 | 25.7<br>(21.6)  |
| 建設   | 36.2      | 39.9 | 41.2 | 45.2 | 44.3 | 45.7 | 41.9<br>(33.6)  |
| 製造   | 16.0      | 20.9 | 24.1 | 24.9 | 28.6 | 34.1 | 26.7<br>(16.7)  |
| 卸売   | 31.4      | 34.4 | 32.5 | 24.1 | 26.3 | 33.3 | 21.6<br>(26.3)  |
| 小売   | 25.4      | 17.5 | 19.6 | 17.8 | 20.9 | 27.1 | 21.2<br>(14.6)  |
| サービス | 25.9      | 24.2 | 21.2 | 22.0 | 23.7 | 31.3 | 21.4<br>(25.7)  |

《採算D I (全産業・前年同月比) の推移》



(参考)

資金繰りD I (前年同月比)の推移

|      | 19年<br>2月 | 3月   | 4月   | 5月   | 6月   | 7月   | 先行き見通し<br>8~10月 |
|------|-----------|------|------|------|------|------|-----------------|
| 全産業  | 19.5      | 20.1 | 18.3 | 18.2 | 19.8 | 21.8 | 21.0<br>(17.1)  |
| 建設   | 29.6      | 36.8 | 27.5 | 33.6 | 34.3 | 35.5 | 35.9<br>(29.0)  |
| 製造   | 11.1      | 12.5 | 13.2 | 14.9 | 16.8 | 21.3 | 17.6<br>(14.2)  |
| 卸売   | 19.0      | 18.6 | 20.4 | 10.1 | 18.6 | 19.7 | 18.8<br>(16.4)  |
| 小売   | 21.5      | 17.6 | 16.0 | 15.7 | 16.8 | 18.1 | 19.7<br>(11.4)  |
| サービス | 19.6      | 20.8 | 19.4 | 16.8 | 16.1 | 17.1 | 17.4<br>(19.4)  |

D I = (好転の回答割合) - (悪化の回答割合)

【前年同月比D I】全産業合計は悪化超感が2カ月連続で強まった。産業別にみると、すべての業種で悪化超感が強まった。

【先行き見通しD I】全産業合計は悪化超感が強まる見通し。産業別にみると、サービスで悪化超感が弱まる一方、他の4業種で強まる見通し。

仕入単価D I (前年同月比)の推移

|      | 19年<br>2月 | 3月   | 4月   | 5月   | 6月   | 7月   | 先行き見通し<br>8~10月 |
|------|-----------|------|------|------|------|------|-----------------|
| 全産業  | 21.0      | 23.2 | 25.6 | 28.4 | 30.1 | 32.4 | 28.0<br>(23.9)  |
| 建設   | 34.1      | 35.8 | 39.9 | 40.7 | 41.5 | 43.3 | 37.7<br>(33.1)  |
| 製造   | 34.8      | 41.7 | 41.5 | 49.4 | 47.3 | 51.2 | 41.7<br>(32.5)  |
| 卸売   | 20.1      | 25.8 | 27.6 | 19.1 | 26.3 | 27.8 | 29.0<br>(32.1)  |
| 小売   | 6.9       | 10.1 | 9.4  | 14.5 | 15.5 | 17.6 | 16.5<br>(13.8)  |
| サービス | 15.6      | 11.5 | 18.0 | 19.3 | 23.5 | 25.1 | 20.5<br>(17.8)  |

D I = (下落の回答割合) - (上昇の回答割合)

【前年同月比D I】全産業合計は上昇超感が5カ月連続で強まった。産業別にみると、すべての業種で上昇超感が強まった。

【先行き見通しD I】全産業合計は上昇超感が強まる見通し。産業別にみると、卸売で上昇超感が弱まる一方、他の4業種で強まる見通し。

従業員 D I ( 前年同月比 ) の推移

|      | 19年<br>2月 | 3月   | 4月   | 5月   | 6月   | 7月   | 先行き見通し<br>8～10月 |
|------|-----------|------|------|------|------|------|-----------------|
| 全産業  | 0.6       | 0.5  | 0.6  | 0.2  | 0.2  | 2.3  | 4.0<br>( 2.4)   |
| 建設   | 14.7      | 16.1 | 14.1 | 17.0 | 17.9 | 16.6 | 12.6<br>( 13.3) |
| 製造   | 3.6       | 1.8  | 0.2  | 1.4  | 2.0  | 1.7  | 6.5<br>( 5.6)   |
| 卸売   | 6.9       | 5.3  | 3.8  | 1.2  | 3.1  | 4.3  | 10.9<br>( 9.6)  |
| 小売   | 5.9       | 8.5  | 10.1 | 6.4  | 6.0  | 3.0  | 1.7<br>(6.3)    |
| サービス | 3.9       | 1.8  | 1.4  | 3.4  | 2.7  | 0.5  | 0.5<br>(0.5)    |

D I = ( 不足の回答割合 ) - ( 過剰の回答割合 )

【前年同月比 D I】全産業合計は過剰超感が3カ月連続で強まった。産業別にみると、建設で過剰超感が弱まったものの、小売、サービスで不足超感が弱まり、製造で過剰超感に転じ、卸売で過剰超感が強まった。

【先行き見通し D I】全産業合計は過剰超感が強まる見通し。産業別にみると、建設で過剰超感が弱まり、サービスで横ばいとなる一方、小売で不足超感が弱まり、製造、卸売で過剰超感が強まる見通し。



## 【平成19年7月の景気キーワード】

### 悪化への懸念

各業種から、業況の悪化と先行きへの懸念を訴える声が寄せられている。建設、製造からは、「業況は確実に悪化している。公共工事の減少により、同業者間の受注競争が激化し、信じられないほどの低価格で落札せざるを得ない。このような状態が続けば、倒産がますます増えるだろう」(金沢・建築工事)、「前年同月に比べ、売上が15%減少した。先行きにも好転の兆しは見られない」(大府・工業用プラスチック製造)との声が寄せられている。また、卸売、小売、サービスからも、「依然として景気回復感はない」(帯広・各種商品卸売)、「来店客数、売上ともに減少した。先行きに期待が持てない」(銚子・商店街)、「来店客数が減少している。業況は厳しい」(境港・食堂・レストラン)と厳しい業況を訴えるコメントが寄せられている。

### 仕入コスト上昇

また、各業種から、原材料価格の高騰による仕入コストの上昇を訴える声が寄せられている。建設、製造からは、「公共工事の減少や原材料価格の高止まり等により経営状態が悪化している」(水沢・一般工事)、「安定した受注を確保しているが、原材料価格の高止まりによる仕入コストの増加により収益面では厳しい状況にある」(新居浜、一般産業用機械製造)との声が寄せられている。また、小売、サービスからも、「調味料の仕入単価が上昇している。販売価格を容易に引き上げることができず、採算の確保が難しい」(土別・その他の小売)、「軽油価格の高騰が運送会社にとって深刻な問題となっている。業界を取り巻く環境は厳しい」(静岡・運送業)といったコメントが寄せられている。

### 天災・天候不順による影響

さらに、各業種から、天災や天候不順による影響を訴える声が寄せられている。製造からは、「中越沖地震による自動車部品メーカーの被災に伴い、一部の受注に影響が出た」(島田・自動車・附属品製造)、「中越沖地震の影響により、過去最長の生産停止状態となった」(稲沢・その他の輸送用機器製造)との声が寄せられている。また、小売、サービスからも、「台風や長雨などの影響により、夏物衣料品の売行きが悪い」(柏・その他の小売)、「台風・地震・天候不順などによる、消費者の購買意欲が低下している」(金沢・商店街)、「台風や長雨により、売上が落ち込んだ」(鹿児島・その他の一般飲食店)といったコメントが寄せられている。

## 【景気キーワードの推移】

| 年   | 月  | 景気キーワード |          |              |
|-----|----|---------|----------|--------------|
| 19年 | 5月 | 回復への動き  | 仕入コストの上昇 | 販売価格の低迷      |
|     | 6月 | 悪化への懸念  | 仕入コストの上昇 | 金利負担の増加      |
|     | 7月 | 悪化への懸念  | 仕入コストの上昇 | 天災・天候不順による影響 |

景気キーワードは、調査対象組合の各月におけるトピック・関心事項などに関する自由回答をまとめたもの。

本文中の( )内は、(地名・業種)を示す。

【産業別概況】

| 産 業  | 概 況   |
|------|---|
| 建 設  | 業況・売上D Iは3カ月ぶりにマイナス幅が縮小、採算D Iは2カ月ぶりに拡大した。「公共工事の減少により、依然として厳しい状況が続いている」(一般工事)「公共工事がほとんどなく、業況は依然として低迷している。この状況がいつまで続くのか見当もつかない」(一般工事)「業況は低迷しており、回復の兆しを見出せない状況が続いている」(管工事)「公共工事、民間工事ともに減少している。また、資材価格も高騰しており、業況は厳しい」(建築工事)「資金繰りに苦慮している」(土木工事)「受注価格の下落により、利益率が低下している」(土木工事)といった声が寄せられている。                     |
| 製 造  | 業況・採算D Iは5カ月連続、売上D Iは2カ月連続でマイナス幅が拡大した。「消費が低迷している。この先数カ月はこうした状況が続くだろう」(かばん製造)「月々の仕事の確保に苦慮している。ステンレスや非鉄金属の価格が高騰しており、採算が悪化している」(一般産業用機械製造)「依然として業況は回復しない。従業員も過剰状態。原油や鋼材の価格も上昇傾向にあり、採算面でも厳しい状況が続いている」(金属加工機械製造)「受注が減少している。得意先からのコストダウン要請と原材料価格の高騰が収益を圧迫している。業況は極めて厳しい」(自動車・附属品製造)といった声が寄せられている。               |
| 卸 売  | 業況・売上・採算D Iのいずれも2カ月連続でマイナス幅が拡大した。「原材料価格の上昇が続いているため、メーカーからの仕入コストも増加している」(家具・建具等卸売)「極端な落ち込みはないものの、業況は依然として低調である」(各種商品卸売)「依然として景気の回復は感じられない。石油製品をはじめとする各種原材料価格の上昇により仕入コストが増加する一方、販売価格への転嫁が進まず、採算が悪化している」(各種商品卸売)「出荷量が減少した。外国材の価格も高騰している」(建築材料卸売)「思うように業績が伸びない」(食料・飲料卸売)といった声が寄せられている。                        |
| 小 売  | 業況D Iは3カ月連続、売上D Iは2カ月ぶり、採算D Iは2カ月連続でマイナス幅が拡大した。「飲料水や中元用贈答品の動きが悪く、前年同月に比べ5%の売上減となった。先行きにも期待が持てない」(その他の小売)「衣料品の売上が伸びなかった」(その他の小売)「売上が減少している。消費者の財布の紐が固くなっていると思う」(その他の小売)「消費マインドが低下している」(商店街)「商店街の中核デパートが閉店した影響か、来街者数の減少が顕著。業況は厳しい」(商店街)「夏物衣料品の販売が不振だった」(百貨店)「とうもろこし、大豆、砂糖などの原料価格が高騰している」(百貨店)といった声が寄せられている。 |
| サービス | 業況D Iは2カ月連続、売上D Iは4カ月連続、採算D Iは3カ月連続でマイナス幅が拡大した。「後継者不足に悩んでいる」(すし店)「燃料費が高く、負担が厳しい」(その他サービス)「来店客数が減少した。原油価格の高騰により、食材や包装容器が値上がりしている」(喫茶店)「同業者間の競争が激化しており、厳しい経営環境が続いている」(自動車整備)「業況はあまりよくない。忙しいときと暇なときの落差が激しい」(酒場・ビアホール)「景気回復感はない。前年同月に比べ、売上が減少した。厳しい経営状態が続いている」(その他の一般飲食店)「宿泊客の減少が続いている」(旅館)といった声が寄せられている。     |

(参考)

【ブロック別概況】

ブロック別の業況D I (前年同月比ベース)は、四国でマイナス幅が縮小したものの、他の8ブロックで拡大した。なお、全ブロック合計は2カ月連続でマイナス幅が拡大した。

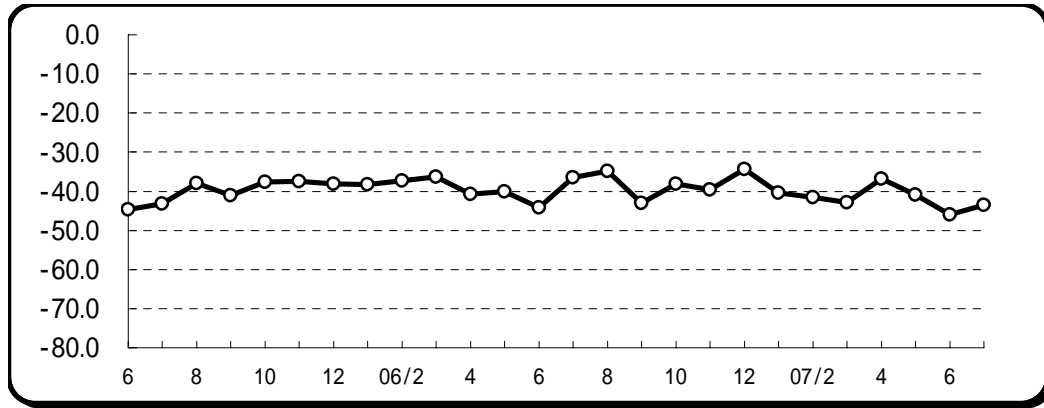
ブロック別の向こう3カ月(8月~10月)の業況の先行き見通しは、昨年同時期と比べて、近畿、中国、四国、九州で改善しているものの、他の5ブロックで悪化している。なお、全ブロック合計は悪化している。

ブロック別・全産業業況D I (前年同月比)の推移

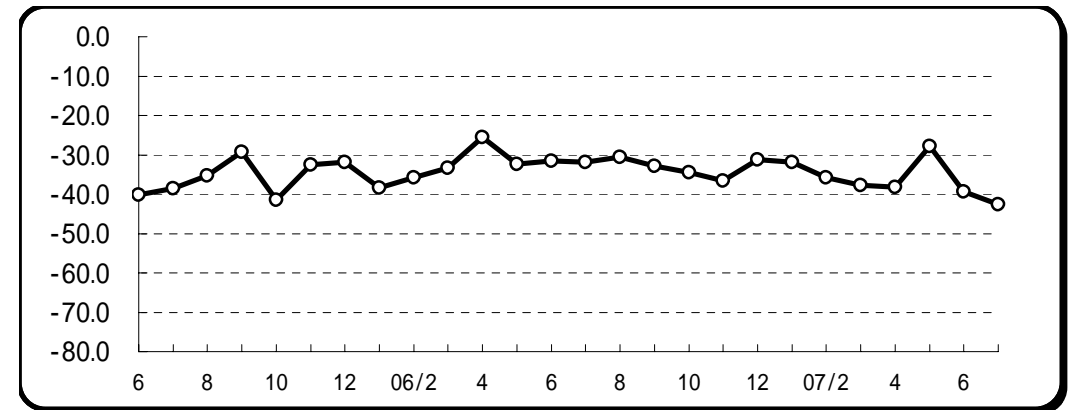
|      | 19年<br>2月 | 3月   | 4月   | 5月   | 6月   | 7月   | 先行き見通し<br>8~10月 |
|------|-----------|------|------|------|------|------|-----------------|
| 全 国  | 27.8      | 26.0 | 25.3 | 25.1 | 29.5 | 32.8 | 24.0<br>( 21.3) |
| 北海道  | 39.0      | 41.0 | 27.4 | 33.1 | 33.3 | 36.4 | 26.7<br>( 22.1) |
| 東 北  | 36.7      | 29.2 | 27.0 | 28.3 | 32.1 | 36.6 | 34.0<br>( 19.1) |
| 北陸信越 | 14.0      | 23.7 | 27.0 | 27.0 | 33.9 | 39.2 | 22.7<br>( 14.4) |
| 関 東  | 23.4      | 22.2 | 20.2 | 18.5 | 24.1 | 29.3 | 20.9<br>( 18.8) |
| 東 海  | 19.8      | 17.8 | 23.5 | 28.5 | 24.4 | 28.6 | 23.1<br>( 19.6) |
| 近 畿  | 34.2      | 25.4 | 24.2 | 25.1 | 26.9 | 31.1 | 27.1<br>( 29.2) |
| 中 国  | 35.0      | 28.8 | 37.2 | 30.3 | 35.7 | 36.6 | 27.7<br>( 28.5) |
| 四 国  | 33.6      | 34.0 | 32.3 | 29.9 | 41.5 | 33.9 | 25.2<br>( 26.6) |
| 九 州  | 28.6      | 24.8 | 22.2 | 21.3 | 28.0 | 32.0 | 14.9<br>( 16.9) |

# 業況D I（前年同月比）の推移（全国）

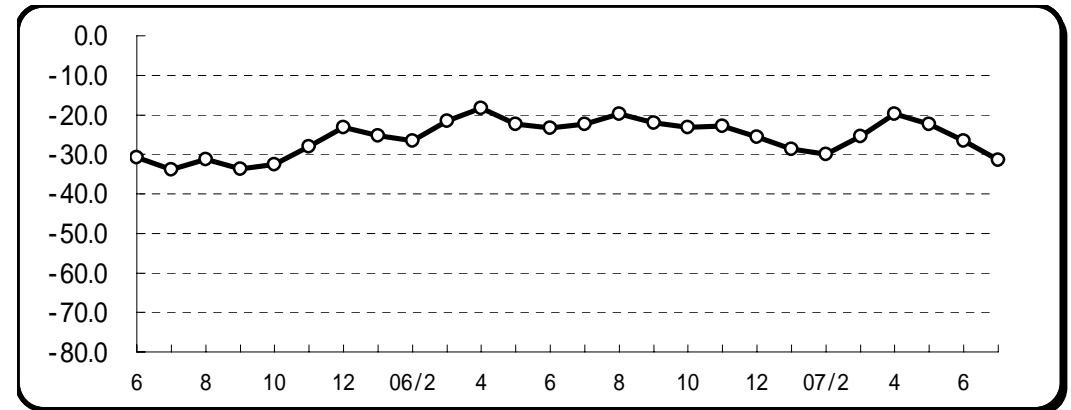
## 建設業



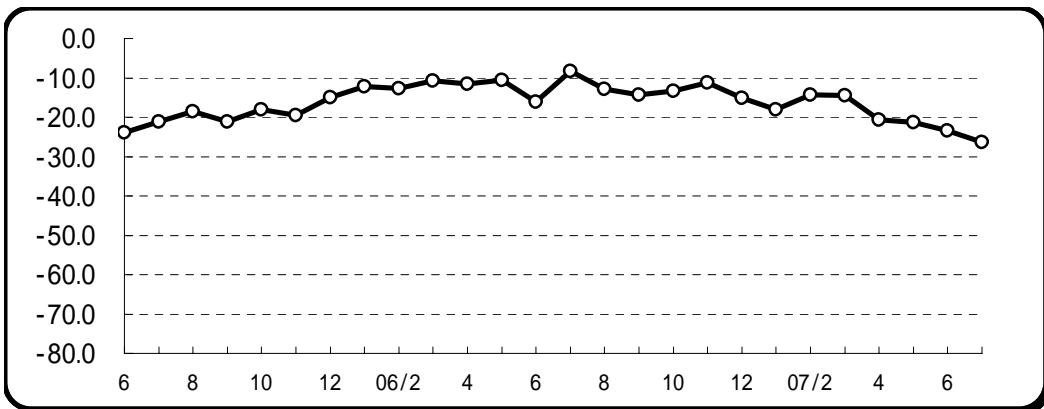
## 卸売業



## 小売業



## 製造業



## サービス業

